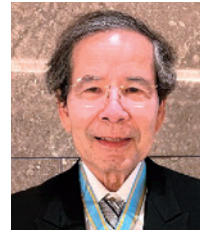


【終身会員のご紹介】

日本生理学会でのこれまでの歩みについて

近畿大学医学部
松尾 理



日本生理学会には、神戸大学大学院入学と同時に入会した。当時の神戸大学大学院には、主科目分担と言う制度があって、麻酔科に居た関係で、麻酔の自動化を考えていた。血液循環関係の第1生理（岡本彰祐教授）、コンピューター関係の第2生理（須田勇教授）の2講座の狭間で、理想的と思えた。しかし、何にも予算がなく、電子計算機と言われてた機器を動かすと、冷房のための電気代が1回15万と言われて、作戦は頓挫した。

その後いろいろ紆余曲折があって、細胞間質液の圧、成分分析、血管作動薬に対する応答性などに取り組んだ。最初の3年間は失敗ばかりで、大学院4年生の4月に初めてデータが取れた時は、嬉しかった！友人に会うためロンドンに行った時、一番大きな本屋に立ち寄った。そこで見かけた本にA Guytonが執筆した章があり、著者らの論文を引用してくれていた。この時も超うれしかった！その後、神戸大学第1生理助手、宮崎医大講師、同助教授、そして近畿大学医学部の教授となったが、学生の勉学態度に満足できなかった。学生は受動的で、アクティブラーニングとは、程遠い行動だった。

主な研究活動：

心筋梗塞や脳梗塞などの血栓症の治療に使われているt-PAを開発した。研究成果は英文論文260編以上にもなっている。

そこで、近畿大学で導入していたPBLを学生実習に応用し、「実習書のない実習」を基礎統合実習として全国の医学生に呼び掛けた。会場を岐阜大学の森田教授の協力を得て、1週間の予定で実施

した（指導：安部 力先生）。どういう機器を使用するか、何をどこまで明らかにするかなど、学生のグループ討論に委ねた。教員は、何を仮定して、実験系をどう組み立てるかなどを質問して回った。

学生達は大学が違い、学年が違うにも拘わらず、真剣に討論しあっていた。最終日に発表会を持ったが、良く練れていて、あらゆる種類の質問にも適切に対応していたのには感動した。時には、他の班のデータをコントロール群として処理している班もあった。短期間だったので、追加の実験を持ち帰って実施している班もあった。時には、学会発表できる班もあった。このような医学教育への取り組みが評価され、「日本医学教育学会医学教育賞牛場賞」を受賞した。行動科学的要素を取り入れた学生教育、臨床研修指導医のトレーニングや医療人の生涯研修の支援を行っている。

生理学会への貢献：

いろいろ事情があって生理学会の発展のために貢献したと言えるのは、理事になってからだ。当時は理事になるには果てしない道のりがあると言われていた。しかし小生は、理事になったら、どうすると言う趣意書を書き、関心を持たれる方々に理解して頂くように努力した。その成果があったのか理事に推挙された。その後、学会活動として思い切り仕事ができるようになった。その中でも特筆すべきは将来計画委員会の初代の委員長に推挙されたことだ。生理学会の将来を心配してどうすれば活況を取り戻すことができるのかという点について1泊2日の缶詰の会議を行った。その際全委員が平等であることを意識してもらうため、円形にテー

ブルをセッティングした。それにより全員がみんなの顔を見れるし、発言者の顔も分かる意図である。

生理学会の現在の体制はほとんどこの将来計画委員会の提案によるものであるといっても過言ではない。また教育委員会委員長として、従前の委員長が大会の際にシンポジウムを組むだけという

のを全面的に改め、モデル講義を導入することにした。講義の内容だけでなく息づかいや、間の取り方などいろんな点で多くの聴衆にとって、講義を改善するヒントになればと立案した。

今後の課題：

若い人たちが挙って参加する学会になるべきと考える。

「健康生活ひとくちメモ」

序：①本文掲載のいきさつと趣旨

生理学・基礎生命科学の研究・教育に携わっておられる方々、またそれらの方々と共に生活されておられる方々やご友人などの方々へ、皆様の毎日の暮らしが心身ともに健康で、その継続ができるだけ長い健康寿命につながる事を念じております。

小生は80歳代に入り、同輩や友人を次々と失い寂しい気持ちになる日々や、現在勤務している老人介護保健施設で入所者・通所者の健康維持と疾病治療の助けをしながらそれにまつわる種々の思いを抱く日々を過ごしておりますと、若い内から色々気を付けたり工夫しながら生活しておく必要性をつくづく(自省を込めて)感じております。

日本生理学雑誌を毎号楽しく読ませていただきながら、記事と記事の間の余白スペースの多さが気になっておりました。そこで、日ごろの生活や暮らしの中で健康増進につながるちょっとした考え方や工夫について、生理機能や病気との関連を踏まえつつ、会員の皆さんだけでなく、その周りのご家族・友人の方々にもわかっていただけるような(専門用語の使用を避けた)一般向けのメモ書きを余白スペースに掲載させていただくことになりました。なお、会員の皆さん向けに、必要と思われる個所には対応する専門用語や医学・生理学的背景などの補足を脚注として付かせていただきたいと考えております。

もちろん本連載文は個々人にフィットした完璧なものにはなりません、それらを日頃から心身ともに健康な生活や健康寿命の延伸を考えていただくヒントや手掛かりにでもしていただければ幸いです。

ご意見・ご異見がありましたらokada@nips.ac.jpあてにお知らせ下さいませよう願いたします。

岡田泰伸 (生理学研究所)